

NIPPON
STEEL
MONTHLY

1・2

2010
JANUARY &
FEBRUARY
VOL.195

新 日 鉄

新年のごあいさつ

厳しい経営環境の下、基本に立ち返り、
確固たる基盤づくりを推進します

● 新日本製鉄㈱ 代表取締役社長 宗岡 正二



新春会長対談

科学と社会を結ぶ
架け橋になりたい

● 東京大学大学院総合文化研究科教授 黒田 玲子氏

● 新日本製鉄㈱ 代表取締役会長 三村 明夫



厳しい経営環境の下、 基本に立ち返り、確固たる基盤 づくりを推進します

新日本製鉄(株) 代表取締役社長 宗岡 正二

本社(東京丸の内)前にて

厳しい経営環境

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、当社が現在直面している2つの危機について、申し述べます。

第一は、足元の経済情勢です。一昨年秋以来の世界同時不況は、在庫調整や経済対策により底を打ちましたが、依然米・EU・日本等での景気回復は鈍く、世界全体が不況を脱したとは言い難い状況です。国内でも、景気対策の及ばない建設や民間設備投資分野では低い活動水準が続い

ており、さらに補正予算の執行停止や円高の影響等から、二番底への懸念も広がっています。一方、国内の粗鋼生産は上期4,333万トンと40年ぶりの低水準を記録した後、回復途上にあります。しかしその回復は主にアジア向け輸出等に牽引されたもので、自動車・家電向け等を除き未だ低レベルで、本格的回復には相当の時間を要する見込みです。

第二は、鉄鋼メーカー間の生き残りを賭けた大競争です。今後アジア諸国では、経済成長に伴い、中長期的に鉄鋼需

要の増加が期待されています。しかし供給面では、中・韓・台等において新製鉄所が続々と稼働・建設中で、アジアを中心とした大競争は一層激しさを増しています。このため、これら最新鋭設備の稼働によって、特にミドル・ハイグレード市場における当社の優位性が脅かされることを、覚悟しておかなければなりません。また国内では温室効果ガスの排出規制強化も検討されており、当社は厳しい競争条件の下、技術・コスト・営業・資源確保等すべての面で、世界の鉄鋼メーカーとの大競争に直面することとなります。

製鉄事業の3つの課題

こうした厳しい状況を踏まえ、強靱な企業体質を持つ「総合力ナンバーワン企業」を目指し、本年は以下の3つの課題に取り組む考えです。

第一は「安全を含む製造実力・製造基盤の再構築」です。まず「安全はすべてに優先する最も大切な価値」であることを、全社・協力会社で再度認識し、安全体質の向上に取り組んでまいります。昨年7月に設置した「安全推進部」を含め、ハード・ソフト対策や人的対応の強化により、直協一体で、安全な職場を目指していきます。

また昨年は、大きな生産変動を経験した一年でしたが、今年は「製造実力向上活動」「製造基盤整備活動」等を通じ、知恵や工夫を積み重ねて、設備・操業両面の基盤再構築に全力で取り組んでまいります。

第二は「コア競争力の抜本的強化」です。まず「コスト競争力」については、トップランナー方式等の導入により、競合他社を凌駕する鉄源ミルの競争力実現に取り組んでまいります。また大分の高炉改修によ

り確立したグループ粗鋼「4,000万トン」体制をベースに、急激な数量変動にも弾力的に対応できる生産対応力を確立してまいります。さらに製鉄コスト、資機材費、設備・修繕費の削減等、コストの優位性向上に全力で取り組んでまいります。

「技術先進性」については、ハイグレード商品を中心に、常に変化する社会やお客様のニーズに即した製品を、製販技研一体となって、スピーディーに開発・製造してまいります。新商品開発や品質優位性、製造プロセス等、すべての面において「総合力ナンバーワン企業」にふさわしい技術先進性を築いていく考えです。

「営業」面でも、国内外を問わず、お客様向けのソリューション提案等により、シェア維持・拡大を図ってまいります。また海外市場では昨年、インドネシアのラティヌサ社(プリキ)やマレーシアのイー・ガルバ社(電気亜鉛めっき)への出資を決定しました。今後も技術投入・人材育成などを通じて、グローバルプレーヤーとして必要な基盤強化を図り、成長する地域・品種での、グローバル営業力強化を推進し

てまいります。

第三は「業務運営の見直し」です。昨年より、「経営ソフトの改革」活動に着手しました。常に自己変革できる会社へと成長していくために、①業務マナーや意識・風土の改革による職場規律の向上、②予算編成等の基幹業務ルールの見直し、③組織・意思決定システムの再構築、④直協のパートナーシップの強化、⑤人材配置・育成施策の見直しの5つの活動を展開してまいります。

あわせて「基本ルール遵守」の再徹底を進めてまいります。当社グループでは過去6年半にわたり、5件の独占禁止法違反事案について、調査等の手続きが行われました。その間多額の課徴金等を支払い、有罪判決を受けたことは誠に遺憾で、厳しく反省しなければなりません。法令やルールの遵守は企業活動の大前提であり、毎年12月を「独禁法・コンプライアンスキャンペーン月間」として、教育・監査活動を強化するなど、このような違反事件を二度と起こさない体制づくりを進めてまいります。

製鉄以外の各事業セグメントの課題

連結企業価値の向上を目指し、本年は以下の課題に取り組んでまいります。

エンジニアリング事業では、各事業分野でトップ3を目指し、技術・業務基盤の高度化による事業構造の強化を図るとともに、新しい核となる事業領域の創出・育成に取り組んでいきます。

都市開発事業では、エリア価値創造企

業として、都市再生・地域再生事業をターゲットに、業界で特徴のあるポジションを確保してまいります。

化学事業では、競争が激化するなか、コールケミカル・機能材料の2事業を核としつつ、次世代商品の事業化検討を行い、安定的な事業運営と成長の両立を目指してまいります。

新素材事業では、一定の成長が見込ま

れる電子産業分野での安定的な事業基盤の確保と、環境・エネルギー等の成長分野の拡大、新商品の開発等により、収益基盤の確立を目指します。

システムソリューション事業では、システム関係投資が抑制傾向にあるなかで、開発実装力強化に加えて、顧客基盤の拡充やクラウドコンピューティング等、成長分野への事業展開の強化を図ってまいります。

地球温暖化問題への対応

地球温暖化問題に対しては、京都議定書期間中の自主行動計画を着実に実行するとともに、ポスト京都議定書に向け、エコプロセス、エコプロダクツ、エコソリューションの3つのエコを通じて、当社の技術力を活かした貢献を継続していく考えです。

また環境税や排出権取引制度等、日本

のみが不合理な負担を強いられることのないよう、鉄鋼業の考え方を社会に対して発信し、政府をはじめとする皆様の理解を得られるように取り組んでまいります。

最後になりますが、厳しい経営環境のなか、新日鉄グループがトップランナーとして必ず大競争に勝ち残ることができるよう

に、社員一同、「新日鉄グループ企業理念・社員行動指針」の精神にいま一度立ち返り、直面する課題の解決に全力で取り組んでまいります。

この一年が皆様にとって、健康で明るい年となりますよう祈念し、年頭のご挨拶といたします。

科学と社会を結ぶ 架け橋になりたい



黒田 玲子氏

東京大学大学院総合文化研究科教授

くろだ・れいこ 仙台市生まれ。お茶の水女子大学理学部卒業。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。1975年から86年までロンドン大学キングス・カレッジおよび英国癌研究所にて研究・教育に従事。86年東京大学教養学部助教授、92年同教授を経て現職に（理学博士）。専攻は、化学、生物化学、生物物理学。分子形態のキラル認識を解明するためのモデルを提唱し、理論の体系化を図る。主な受賞歴は、第13回猿橋賞、第1回日産科学賞、文部科学大臣表彰など。著書に『生命世界の非対称性』（中公新書）、『科学を育む』（中公新書）など。2008年国際科学会議（ICSU）副会長、2009年スウェーデン王立科学アカデミー外国人会員に選出される。

巻貝の右巻き左巻きはどうやって決まるのか、化合物の右型と左型は分子レベルでどうやって識別されるのか。自然科学系分野の研究者である黒田玲子氏は、この不思議なキラル（左右非対称）の世界に魅せられ、長年にわたり研究活動を続け、これまで数々の成果をあげてきた。その一方で、強い使命感を持って、「社会のための科学」を実現する活動に取り組み、2008年には科学者の国連とも言うべき国際科学会議（ICSU）^(※1)の副会長に選出された。今年の新春会長対談では、東京大学大学院教授の黒田玲子氏をお招きし、最先端の研究や、地球規模でのさまざまな課題解決に向けて、21世紀の科学技術が社会に果たすべき役割などについてお話を伺った。



左巻きの巻貝（左）と、本来は左巻きだったものを右巻きに操作した巻貝（右）

三村 明夫

新日本製鉄(株) 代表取締役会長



化学クラブの白衣に憧れ、“エレガントな研究者”の道へ

三村 先日、巻貝を使った研究で、本来遺伝子の働きで決められている貝殻の巻き方を逆にする実験に成功されたとの記事を読みました。世界で最も権威のあるイギリスの総合学術雑誌『ネイチャー』に論文が掲載され、将来的に生命の左右構造の解明に役

立つ「エキサイティングでエレガントな研究」と高い評価を受けた2004年に引き続き、この研究成果が、同誌2009年12月号に掲載される予定だとお聞きました。

黒田 そうなんです。Le Monde、Physics Worldなど海外メディアからもたくさんの取材を受け、大きな反響がありました。実は今日、貝殻のペンダントをつけてきました。学生が作ってくれたものです。ちょっと

今日の服には合わない気もしていますが(笑)。

三村 いやとても素敵ですよ。でもどうして、巻貝の研究をするような科学者の道に進まれることになったのですか。

黒田 父が国文学者だったこともあり、本に囲まれて育ちました。「心頭滅却すれば火もまた涼し」という考えの持ち主だった父は、研究と関係のある本を買うことだけが趣味のような人で、廊下や子ども部屋にまで本が積み上がっていました。でも私には本を買ってくれなかったので、高校時代は図書館で読むように自宅にある『徒然草』や『更級日記』などを読んでいました。大学進学の際は、進路選択を大変迷いましたが、文系と違って理系は大学に行って早くから勉強しないと身につかないと考えて理系へ。理系に進んでロジカルなものの考え方ができるようになりたいという思いもありました。

もともと数学が好きでしたが、小学6年生のときに友人に誘われて化学クラブに入り、母が縫ってくれた白衣を着て、フェノールフタレインなどわけのわからないカタカナを使って偉くなったような気がしましたね。今考えると、そのときの先生が「この実験は何のためにやるんだろう」と問いかけ考えさせる、いわばヒントを与えて後は自主性に任せるような指導をしてくださったことが、化学を専攻するきっかけになった気がします。兄が学



ご家族と(大学時代)

※1 ICSU(International Council for Science): 人類の利益のため、科学とその応用分野における国際活動の推進を目的として1931年に設立された国際的な非政府組織。国際学術団体組織の中で最も権威のある組織。ICSU会長・副会長等役員への黒田氏の選出は、日本人としては3人目(1963年茅誠司氏が副会長に、1999年吉川弘之氏が会長に選出される)。



んでいた素粒子物理学は難しそうでしたし(笑)。

三村 現在、研究者としても充実した日々を送っていらっしゃると思いますが、黒田さんが今取り組まれている研究内容についてもう少しお聞かせいただけますか。

黒田 少し専門的になりますが、世の中のすべての物質はそのかたちから大きく2つに分類されます。靴のように右と左の区別のあるもの(左右非対称:キラル)と靴下のように右も左もないもの(左右対称:アキラル)です。そして右と左の違いがあるもの同士だけがお互いを認識できます。キラ

ルがキラルを認識しお互いに作用するわけです。例えば、私たち生物のDNAの中にある糖はキラル物質で、左右2つのタイプがあります。しかし不思議なことに、地球上のすべての生物のDNAを作っているのは右の糖だけなんです。そのため、右足だけしかないDNAの糖が左右両足の靴(のような他のキラル物質)をもらっても、左の靴を履けずに困ってしまい、人体に悪影響を及ぼすことになります。同様に、タンパク質はアミノ酸からできていますが、これもキラルで右と左の2つのタイプがあるのに、タンパク質を作っているのは左のアミノ酸だけなのです。実はこのように、生命の分子が左右の一方に偏っている現象がサリドマイドなどに代表される薬の副作用の原因や、殺虫剤や除草剤などの農薬の効き方の違いとなるんです。こうした望まれない作用をなくすためにも、現在取り組んでいる分子レベルの研究は重要だと考えています。

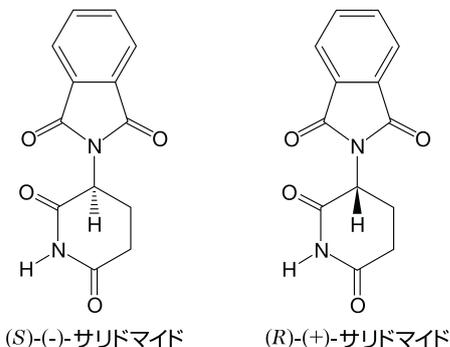
三村 非常に難しいお話ですが(笑)、人類のさまざまな課題に科学で解答を出そうとする研究者としての情熱が伝わってきます。それに何より、楽しそうに話している黒田さんの表情が印象的です。

地球規模での問題解決の重責を担う

三村 この対談が決まってから、黒田さんも出席されていた1999年7月の「世界科学会議」(ハンガリー・ブダペスト)で採択された「ブダペスト宣言」の前文を読みました。科学者の方々が集まり議論して悩みながら、科学の今後の道筋や方向性を示したもので、素晴らしい内容ですね。黒田さんは、その中の「社会における科学と社会のための科学(Science in Society and Science for Society)」について「我が意を得たり」と言われていますね。

黒田 私自身、宣言採択の3年前に「社会の中の科学 科学にとっての社会」という文章を書き、科学と社会の関係、理系の科学者と社会科学者との交流の必要性、科学が進歩すればするほど、脳死判定や人工授精による親子の定義など白黒がつかないグレーゾーンが広がるといった問題提起をしていたので、その理念の符合を大変うれしく思いました。

現代社会では、科学を生活から切り離して考えることはできないため、知識のための科学という旧来の視点だけでは不十分です。21世紀に入って、人



サリドマイドには、S(左)(-)とR(右)(+)の2種類が存在する。1960年代につわり止め薬剤として、妊婦にこの2種の混合剤が投与された。動物実験では、S(-)が胎児に奇形を生じさせたとの報告がある

ブダペスト宣言(*2) 前文(抜粋)

我々のすべては同じ惑星に住み、我々のすべてはその生物圏の一部である。…(中略)…科学は人類全体に奉仕すべきものであると同時に、個々人に対して自然や社会へのより深い理解や生活の質の向上をもたらす、さらには現在と未来の世代にとって、持続可能で健全な環境を提供することに貢献すべきものでなければならない。



*2 ブダペスト宣言:1999年ユネスコ(UNESCO)と国際科学会議(ICSU)の共催として初めて開かれた世界科学会議で採択された「科学と科学的知識の利用に関する世界宣言」。

口やエネルギー、環境をはじめとする世界的な規模でのさまざまな問題が一層深刻になっていますが、ブダベスト宣言では、「知識のための科学」「平和のための科学」「開発のための科学」に加え、「社会のための科学」という理念が掲げられたことに大きな意義を感じています。この宣言は科学者のバイブルとも言えるものです。

三村 文明の進歩に伴って細分化してきた科学が、それぞれの領域でさらに深化し、研究者同士もお互いの研究内容を理解できなくなり、ましてや社会から見るとますますわからなくなってしまった。そうしたタコツボ化の問題も背景にあるように思いますね。

黒田 その通りです。私は、長く海外で研究生活を送っていたこともあり、比較的広い視野を持つことができたように思います。特にイギリスでは国も歴史も宗教も異なる集団の中だったので、さまざまな視野から物事をとらえられるようになり、その過程で、結局科学は、その成果が社会に理解され受け入れられないとだめだと実感するようになりました。

三村 2008年10月にはICSUの副会長（渉外担当）に選出されました。日本人として会長、副会長に就任したのは3人目、日本人女性科学者としては初

となる快挙です。ICSU総会での、これからの科学はどう変わるべきかを力強く説いた黒田さんのスピーチが、浮動票を引き寄せ形勢を逆転して当選されたとお聞きしています。現役の大学教授がICSUの要職に就くのは異例な中、国際機関、あるいは科学が地球的問題を解決するために果たさなければならない役割を感じられていることだと思いますが、一貫した理念と使命感に感服します。

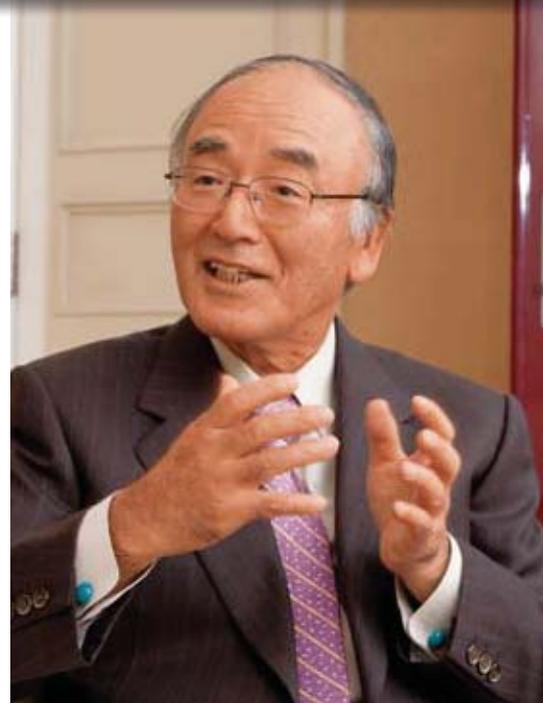
黒田 ICSUは、世界117カ国・地域のアカデミーと、学問分野を代表する30の国際学術連合で構成される世界的組織で、いわば科学者の国連のような機関です。今後、こうした英知を結集した機関が中心となり新たなサイエンス・コミュニティを形成しなければ、環境問題など複雑化、多様化する21世紀の課題は解決できないと思います。たとえばIPCC（気候変動に関する政府間パネル）が2007年のノーベル平和賞を受賞しましたが、ICSUは1969年に地球環境問題の重要性を認識し、評価・研究機関を立ち上げ、IPCCの学術的な背景を提供してきました。

三村 世界最先端の研究をしながら、ICSUの副会長を務められ、世界が抱えるさまざまな問題解決に向けた活動に取り組まれている。このエネルギーはすごいですね。

総体としての答えを求める 21世紀の科学

三村 黒田さんは化学の研究者としてスタートし、イギリスでの11年間を含めた研究生活を通じて、生物学、分子生物学など、幅広い研究領域にチャレンジされてきました。これは従来の細分化・専門化という歴史を経てきた科学とは逆の道を進まれているように感じますが、いかがですか。

黒田 科学では、細かく見て初めて見



えてくる共通原理があります。20世紀の科学は、こうした共通原理や基本原理の研究や発見に重きが置かれてきました。この原理の発見によって、例えば大腸菌とヒト、さらにヒトと同じ遺伝子を97%持つチンパンジーの生命を構成している基本分子は同じもので、地球上のすべての生物は同じ祖先から進化してきたことがわかりました。しかしいくら細かく分析してDNAがわかかったところで、大腸菌とヒト、チンパンジーの違いはわかりません。結局さまざまな要素を統合、融合しないと、多様性や複雑性の説明はできないのです。また世の中の現象は、場所や環境などTPOに応じて各要素が相互作用し変化して全体を作り出しています。複雑な現象を縦軸・横軸で見たり、相互にオーバーラップさせながら説明することが21世紀の科学の一つの役割だと考えています。このため、その解答も1つのベスト・ソリューションではなく、複数のベター・ソリューションとなります。私の研究領域の広がりはこの考えが基になっています。

三村 黒田さんと同じような疑問を持って、統合化、融合化という視点で研究を進めるのが自然の流れだと思うのですが、日本ではそうした科学者が



ブダベスト宣言採択10周年を記念して開催された「世界科学フォーラム2009」で講演される黒田先生

少ないのはなぜでしょうか。

黒田 日本の教育システム、例えば大学では一度研究室に入ったら他の研究室に移籍しにくいですし、同じ研究を深化させたほうが論文も出しやすい。こうした事情が背景にあるように感じます。一方で化学の世界から見ると、生物も非生物も結局は似たような分子からできています。こうした縁の下の力持ち、基礎的研究領域だからこそ、統合化、融合化に取り組みやすいという素地があったのかもしれない。

自分の立ち位置を理解できる“教養”を

三村 「社会のための科学」の理念を実現するためには、何が重要だとお考えですか。

黒田 社会が抱えるさまざまな問題解決のためには、目的志向型研究と将来思わぬ飛躍に結びつく純粋基礎研究の両方が必要です。そしてどちらの研究においても、科学者には“教養”が求められます。ここで言う教養とは、『源氏物語』を原文で読める教養ではなく、広い空間軸と長い時間軸で、宇宙の誕生から素粒子の世界まで広

い視野からとらえ、現在の自分の立ち位置を理解する、そして相手に対する思いやりを持つことのできる能力です。純粋な基礎科学研究をやりながらも、そうした教養を持つことで、社会に役立つ新たな発見やブレイクスルーを実現することが容易になると私は考えています。例えば、マイクロ波の研究過程で水の共鳴振動を見て、ガスも火も使わない人にやさしく安全な電子レンジの発想が生まれました。科学研究の現場にある発見や新技術の芽を見逃さないためにも、科学者には“現代人の教養”をぜひ身につけてほしいと思います。

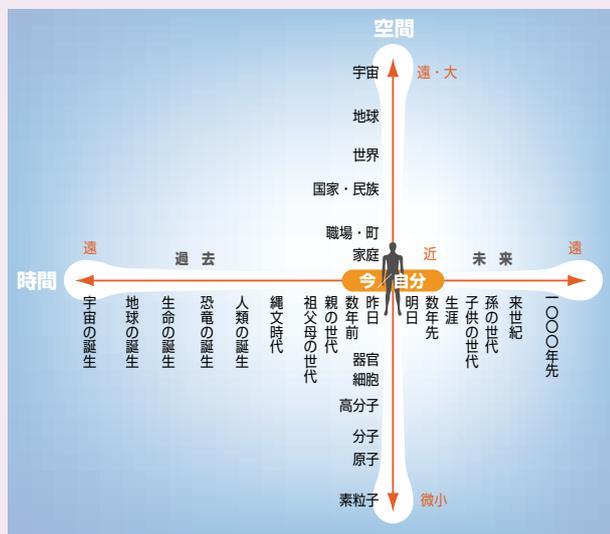
三村 もう一度大学に入り直したくはありませんが(笑)、先生の講義はぜひ受講してみたいですね。科学が高度化する中で、その成果を享受する個人も科学に目を向け、知識を得て自ら判断する力を身につけなければなりません。一方で科学者も、社会に対して科学がやっていることを発信し、説明して理解してもらう努力が必要です。また黒田さんは大学で、科学者と一般の個人の橋渡しをするサイエンス・インタープリター(※3)養成プログラムを作り、科学と社会の双方向な関係作り

を行う人材育成にも努力されていますが、実際の成果に結びつけるためには多くの知恵や工夫が必要ですね。

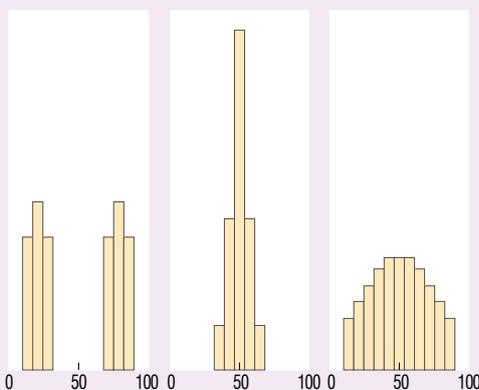
黒田 おっしゃる通りです。現在東京大学では、大学院生(一部社会人向け講座を夜間に開設)に、サイエンス・インタープリター養成講座を開設しています。東大全学の、文系・理系の大学院生を対象にした副専攻の位置づけです。受講する大学院生は大変だけれど、やりがいがあると来てくれます。少人数教育をしています。ここで育った学生が触媒となって、日本、いや世界中にこの活動を広げてほしいと期待しています。「どうわかりやすく伝えるか」だけではなく、「何を伝えるか」を考えることも目指しています。科学の基礎知識や特質だけではなく、科学的なものの考え方も学びます。定量的な把握、平均と分布、統計の意味するところなどです。自然の素晴らしさに感動し、科学の基礎知識や特質がわかり、科学的なものの考え方ができ、人のことを思いやることができ、表現力があり、かつ英語で読み書き会話ができることなどを目標にしているので、大変欲張りですね。

また私が滞在したイギリスでは、例

空間軸・時間軸の概念図



科学的な考え方 平均と分布



同じ平均値でもいろいろなケースがある。どのように分布したものの平均かを知らなければ、その平均の値を理解したことにならない



※3 サイエンス・インタープリター：最先端科学の研究成果や社会的意味を一般の人に、また社会的な意味を科学者に、双方向で説明・解説する人材。専門用語の単なる直訳ではなく、問題を指摘して進むべき方向を示唆する解説・評論者。



えば、物理学者のファラデー以来180年の伝統を誇る英国王立研究所の金曜講話という場があり、超一流の科学者が専門外の人や子どもたちを対象に、「楽しませ、もてなし、同時に教育・啓発し、何よりもひらめきを与える」場をボランティアで提供しています。そうした取り組みも、科学を根付かせる土壌を育む一つの方法だと考えています。

三村 将来を予測して統合化、融合化といった観点から経営の舵取りをしなければならない企業経営者として、サイエンス・インタープリターの重要性はよくわかります。ただちょっと不満なのは、黒田さんはサイエンス・インタープリターとして、作家や評論家、ジャーナリストなど文科系の人材などとの交流を掲げられていますが、企業

の経営者が全く出てこないことです。

黒田 いいえ私たち研究者は、逆に企業の経営者の方々から大いに学ぶ必要があると感じています。企業経営者は研究者よりはるかに視野が広く、世の中の先の動きを見えています。例えば、IBMは流暢な英語で電話による顧客対応をしますが、そのコールセンターはインドのバンガロールにあります。安価な労働力の国際分業だけではなく、新たな発想で質の高いブレインワークの国際分業を目指しています。そんなことを考える学者・研究者はなかなかいません。

三村 企業では、経営者だけではなく社員の研究者も、学校などで講義することにやりがいを感じると思いますが。社会全体で教育を支援し、企業人

として社会貢献したいという強い思いを持っています。各企業の取り組みをトップランナー方式で情報交換しながら、社会全体の教育の質を高めるお手伝いをしたいと考えています。

また中央教育審議会の会長として、常々感じていることですが、若い人たちの感性や創造性を伸ばしていくためのベースは、生きる力を身につけさせることだと思います。その上で重要な点は、一つには新しいことを経験させることによって感動の場を与えること、二つ目には異なった価値観や意見に直接触れて、自分なりに咀嚼・解釈する能力を身につけさせることだと思います。当社でも年間10万人の工場見学者を受け入れています。こうした活動を通じて、若い人たちに感動を伝えていきたいと思っています。

黒田 先ほどお話した自分の立ち位置を理解することとも関係しますが、若い人たちにはぜひ、自分が生命体であることの不思議さをハングリーに学んでほしいと思います。そうすれば歴史への興味、未来への希望、親や先人への感謝の気持ちが自然に生まれてくると思うのです。自分の殻に引きこもっている暇はないと思います。

三村 今後、黒田さんも研究者としてはもちろん、科学と社会をつなぐサイエンス・インタープリターの代表として、さらにご活躍されることを期待しています。本日はありがとうございます。

(この対談は、2009年11月19日、当社南平台公邸で行われました)



サイエンス・インタープリターの社会人向け講座風景



イギリスの旧20ポンド紙幣裏面に印刷された物理学者マイケル・ファラデーの肖像。その左側には、彼が金曜講話で講義する情景も描かれている。世界的に見て、紙幣に使われる肖像はその国民にとってなじみの深い人物だが、日本では2004年度に野口英世の肖像が使われるまで、科学者が紙幣に登場することはなかった



エコプロダクツ 2009

2009年12月10日～12日の3日間、東京ビッグサイトで「エコプロダクツ2009」が開催された。企業・自治体・大学・NGOなどのさまざまな活動紹介や交流が行われる日本最大級の環境展示会で、11回目を迎えた今回は3日間で来場者数は約18万人にのぼった。新日鉄は、環境コミュニケーションの重要な機会として、第1回から継続して出展している。今回は、身の回りのさまざまなところで重要な役割を果たす鉄と、その鉄を通じて世界最高水準の技術を培い社会に貢献している新日鉄グループの総合力をさまざまな角度から紹介し、訪れた多くの来場者の関心を集めた。

今回の新日鉄グループの展示テーマは、「いのちとくらし、そして社会の発展に貢献する鉄、新日鉄グループ」。生物の生存や身近な暮らし、社会の発展において鉄は不可欠な存在であることや、新日鉄グループの環境調和型の持続可能な社会に向けた取り組みを、

身近な製品からビッグプロジェクトまでの実例を通じて紹介した。

新日鉄グループの総合力をご理解いただくため、環境への取り組みをキーワードに、新日鉄エンジニアリング、新日鉄都市開発、新日鉄化学、新日鉄ソリューションズ、新日鉄住

金ステンレスとの合同展示とした。

また、ブース内でクイズラリーを行い、正解した方には、今回の展示コンセプトにも通じる新日鉄の好評絵本シリーズ『鉄と生命の新・モノ語り』、『鉄と文明の新・モノ語り』をプレゼントした。

地球と鉄、 生命と鉄

地球の重量の3分の1は鉄

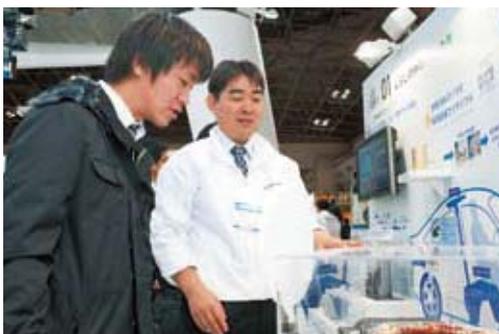


生命を支える鉄

くらしを支える鉄



鉄を使った身の回りの道具類



家の中でも、家電製品や住宅の構造・内外装に使われるなど、鉄は大活躍



未来の照明 / 新日鉄化学の有機ELの材料

自動車のボディに使われるハイテン、燃料用タンク「エココート®-S」、ハイブリッドカーのモーター用電磁鋼板、タイヤのスチールコードなど、車には最先端の鉄が使われている



社会の発展を支える新日鉄グループの技術



あの東京スカイツリーも鉄がなくては作れない



新日鉄ソリューションズのリアルITソリューション、新幹線のレール展示などを視察する宗岡社長



羽田空港の拡張工事にも新日鉄のチタンや鋼管矢板、新日鉄住金ステンレスの製品、新日鉄エンジニアリングのジャケットが使われている

持続可能な未来の社会を支える技術



製鋼スラグを活用した海の森づくり



新日鉄化学の次世代太陽光発電



エコプロダツ 2009を終えて

環境部環境リレーションズグループマネジャー 篠上 雄彦

今回は、新日鉄の営業・技術・研究部門に加えて、グループ会社が一体となって、地球や生命にとっての鉄の重要性や当社グループの技術先進性を通じた社会への貢献と未来への可能性を感じとっていただけただけに理解していただける展示を心がけました。

おかげさまで、1万2千名を超えるお客様に当社ブースにご来場いただき、当社グループの技術先進性を通じた社会への貢献と未来への可能性を感じとっていただけただけではないかと思ひます。

子どもたちや先生に企業の取り組みを伝える

海老名高校で「エコプロダクツ展事前授業」を実施

新日鉄は2009年11月27日、神奈川県立海老名高等学校で当社の環境への取り組みを紹介する出張授業を行った。これは(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会(NACS)が2001年から進める「エコプロダクツ展への高校生招致」活動の一環として行うもので、エコプロダクツ展参加校の生徒たちが企業・団体の環境への取り組みに関心・意欲を高めた上で、展示会を見

学できる取り組みとして好評を博している。

新日鉄は今回、講師に環境部環境技術グループリーダーの吉田言を派遣し、1年生に対して、生命や地球における鉄の重要性や、当社グループのエコプロダクツ、エコプロセス、エコソリューションについて説明した。

12月11日には、事前授業を受けた生徒たちがエコプロダクツ展で当社の

ブースを訪れ、社員の説明に熱心に聞き入っていた。

NACSでは、「生徒たちは事前授業を踏まえてエコプロダクツ展に参加し、企業展示ブースで説明を受けて、さらにその環境への取り組みに理解を深めています。今後とも企業の環境への取り組みへの理解と、生徒たち自らのエコアクションへの転換が具体化できるよう招致活動に取り組んでいきます」と話している。



事前授業の様子



エコプロダクツ展で新日鉄グループの展示を見学する生徒たち

枳形中学校で環境実験教室を開催

2009年12月18日、神奈川県川崎市立枳形中学校で毎年恒例の「エネルギー環境ワークショップ」が開催され、当社は、環境部とエネルギー・プロセス研究開発部の社員3人が講師となり、1~3年生合計約30名の生徒に、使用済みプラスチックのリサイクルで燃料電池車を走らせる実験を行った。

ワークショップでは、最初に製鉄プ

ロセスを紹介し、鉄づくりでCO₂が発生する理由と、CO₂排出削減に向けた製鉄所のさまざまな取り組みを説明。次に製鉄プロセスを利用した熱分解による廃プラスチックリサイクルの取り組みを紹介した。

熱分解では燃焼と違いCO₂が発生せず、水素が得られる。そこで、プラスチックを熱分解させて出てくるガスから水素

を回収して燃料電池車を走らせる実験を行った。生徒たちに熱分解の仕組みを理解してもらうため、使用済みプラスチックを装置に入れて、それが溶けて油に戻る様子を観察し、検知器で水素が発生していることも確かめた。その後、実際に水素ボンベを使って燃料電池車を走らせるなど、生徒たちは最後まで熱心にワークショップに取り組んだ。



講義の様子



使用済みプラスチックの熱分解実験の様子

新日鉄は、次世代を担う子どもたちやその教育を担う教員の皆さんと交流し、当社のさまざまな活動やものづくりの魅力を伝える取り組みを行っている。今号では、恒例となっている、「エコプロダクツ展」に参加する高校生への事前授業、中学生に向けた「エネルギー環境ワークショップ」、昨夏に製鉄所で行われた「教員民間企業研修」について紹介する。

学校と連携を深め、「ものづくり教育」を推進 教員民間企業研修——名古屋製鉄所、室蘭製鉄所

2009年度も名古屋・室蘭両製鉄所で「教員の民間企業研修」を実施した。同研修は(財)経済広報センターが主催し、小・中・高等学校などの先生に夏休み期間中、企業活動を体験していただき、企業の人材育成や環境問題への取り組み、企業の姿勢などへの理解を深めていただくとともに、その体験や見聞を明日の日本を担う子どもたちへ伝え、今後の学校運営などに活かしていただくことを目的としている。

研修に参加した名古屋市立萩山中学校で3年生学級を担任している牧野陽子教諭は、研修体験を教育現場での進路指導に活用した成果を次のように話す。

「お客様の信頼を得るための行動やものづくりに対するプロ意識の大切さについて伝えると、『辛いこともあるけれど楽しそう』『面白そう』『やりがいがある』といった声が上がりました。進路に向き合い始めた生徒たちにとって、働くことをイメージするのに大変役立ちました」

また、登別市立幌別中学校で特別支援学級を担任している西智之教諭は、研修に参加して次のように思いを新たにしている。



灼熱の鋼板(スラブ)を前に、鉄づくりの迫力を知る

「ものづくりや環境に対する取り組みが『人としての生き方』に通じることを学びました。このことは人を育てる教育の場でも重要なことですし、それ故に今回の貴重な体験を現場で活かしていかなければ、と強く感じました」

新日鉄は同研修を通じて、今後とも地域の自治体・学校との連携を深め、「ものづくり教育」を推進していく。



製鉄所でつくられる高機能製品について学ぶ



室蘭・第一鉄鋼(株)での実習。高い品質管理レベルを支える人の力を実感



薄板をつくり出すロール(実物)の大きさに驚く

広畑製鉄所



地元小学校で出前実演



広畑製鉄所は12月4日、姫路市立広畑小学校で「第4回たたら製鉄出前実演」を行った。同校5年生77人の児童は、グラウンドで模擬炉の組み立てや熱した鉄片をハンマーでたたき鍛冶作業を体験。たつの市新舞子浜で自ら採取した砂鉄を原料に出来上がったケラ(※)を所員が炉から取り出すと、大きな歓声が湧き上がった。

料に出来上がったケラ(※)を所員が炉から取り出すと、大きな歓声が湧き上がった。

名古屋製鉄所



新入社員と中学生が競演



名古屋製鉄所は11月14、15日、愛知県東海市の「東海秋まつり2009」でたたら製鉄を実演した。秋まつりでの実演が4回目となる今回は、新入社員12人が1基、黒崎播磨(株)と濱野鋼業(株)の社員の指導の下で東海市立青少年センターで活動する中学生6人が1基を操業し、どちらも7kgを超えるケラを取り出すことができた。

基を操業し、どちらも7kgを超えるケラを取り出すことができた。

全国のものづくりの心をつなぐ

日本古来のたたら製鉄は、砂鉄を原料とし、3日3晩かけて、ふいごと呼ばれる送風装置を使って木炭を燃やして鉄を取り出す製鉄法。新日鉄では、ものづくり・鉄づくりの面白さを皆様に伝えるため、たたら製鉄の原理を応用して、1日で鉄づくりを体験できる「たたら製鉄実験」を各地の製鉄所や科学技術館などで開催・支援している。今号では昨年8月から12月にかけて行われた「たたら製鉄実験」の様相を紹介する。

北九州・育成たたらと市民たたら



地域共生と人材育成を図る



八幡製鉄所は11月29日、北九州市八幡東区の東田第一高炉史跡広場で当社・協力会社社員の人材育成を目的とした「東田たたらプロジェクト2009」を開催した。北九州産業技術保存継承センター主催の「市民たたら」も同時に行われ、参加した親子はものづくりの楽しさを味わっていた。製鉄所では同イベントを通じて、地域共生と人材育成を図っている。



室蘭製鉄所



原料装入で鉄づくりを体感



室蘭製鉄所は8月1、2日の両日、室蘭市の新日鉄球場でたたら製鉄実験を行った。若手スタッフ38人が中心となって企画・運営し、事前に市内の学校やスーパー、病院などでPR活動を展開。炉容積を前年よりも33%拡大した新世代たたら操業に挑戦し、約

10kgのケラを取り出すことに成功した。帆布服に軍手姿で汗だくになりながら原料装入を体験した子どもから、「あんな暑い格好をして毎日仕事を頑張っているなんてすごいね」と感想が寄せられた。

釜石製鉄所



八戸高専祭で実演



釜石製鉄所は「鉄作り体験会」を、8月1日に岩手県釜石市の釜石鉱山(株)事業所で、10月25日に青森県八戸市の国立八戸工業高等専門学校で実施した。釜石では小学生の親子80人がたたら製鉄を体験したほか、製鉄所若手スタッフが植木鉢とぶりき製

ごみ箱の簡易炉で鉄づくりに挑戦した。また、八戸では同校の文化祭の招待を受け、200人を超える来場者の前でたたら製鉄を実演した。

“たたら”の熱い炎”

日本鉄鋼連盟



科学技術館で親子イベント



日本鉄鋼連盟は、11月29日、科学技術館(東京都千代田区)で「ものづくり体験『たたら製鉄実験イベント』」を開催した。NPO法人「ものづくり教育たたら」の指導の下、19組38人の親子が参加し、

炉づくりから木炭・砂鉄装入、ケラ出しまでを行った。足で踏んで送風する「ふいご」も子どもたちが交代で体験。砂鉄30kgから約5kgのケラができ上がり、その一部は科学技術館に展示されている。

NPO 法人ものづくり教育たたら



砂鉄採取と炭焼きも体験

新日鉄をはじめ鉄鋼各社が協賛して立ち上げたNPO法人「ものづくり教育たたら」は、東京工業大学名誉教授の永田和宏氏が理事長を務め、たたら操業指導者を養成するほか、全国の学校や企業が企画するたたら製鉄体験学習の指導を行っている。

2009年は、子どもゆめ基金を活用したたたら教室を開催。小学4年生から中学3年生の38人の子どもたちとその保護者が参加し、8月から9月にかけて、千葉県千倉海岸での砂鉄採取、群馬県赤城青少年交流の家で炭焼き体験、現代の製鉄法を学ぶ君津製鉄所見学、11月22日に日本工業大学でたたら操業を行い、総合的に鉄づくりの過程を体験した。

ものづくり教育たたらHP — <http://www.tatara.or.jp>

世界最長の「直線形鋼矢板」が海外大型インフラに初採用

新日鉄が開発を進めてきた世界最長38mの「直線形鋼矢板」が、世界有数の建設プロジェクトである韓国・仁川国際空港第二連絡橋（仁川大橋）の橋脚基礎を船舶の衝突事故から防御する衝突防止構造に大量採用された。38mの同製品が採用されたのは本プロジェクトが初めて。

新日鉄は設計段階から、同製品の特長を最大限に生かす鋼材・鋼構造にかかわるさまざま

なソリューション提案を行った。工事で採用された「直線形鋼矢板セル工法」は、あらかじめ波浪の影響の少ない場所で鋼矢板をセル状に接合し、その後、設置現場に運搬し打設する工法で、海上交通に影響を及ぼす期間の大幅短縮を実現するとともに、現場のさまざまな課題解決を側面から支援した。

お問い合わせ先
総務部広報センター
TEL 03-6867-2135



施工中の仁川大橋（韓国）

新日鉄・POSCO 合併の乾式ダストリサイクル・還元鉄生産設備が竣工

新日鉄と韓国POSCOが合併で建設を進めてきた「乾式ダストリサイクル・還元鉄生産設備」（RHF）の竣工式典が2009年11月25日、POSCO浦項製鉄所で行われた。

両社はPOSCOの製鉄所で発生する乾式ダストの有効活用を目的として、2008年1月に乾式ダストをリサイクルし、還元鉄を供給する合併会社を設立。合併会社のプラン

トとして、浦項・光陽両製鉄所構内に、ダスト処理能力20万t/年の新日鉄型RHFを1基ずつ合計2基建設した。今後、合併設備で生産される還元鉄は両社で活用していく。

お問い合わせ先
総務部広報センター
TEL 03-6867-2135



浦項製鉄所に竣工したRHF

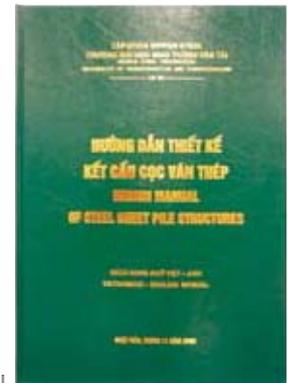
ベトナム初の『鋼矢板設計施工マニュアル』を作成

新日鉄は港湾や鉄道などインフラ整備が活発なベトナムで、建設用鋼材である鋼矢板の普及を図るため、ベトナム交通運輸省の監修の下、ベトナム交通運輸大学と共同で『鋼矢板設計施工マニュアル』を作成した。鋼矢板に関する統一の基準がない同国で、本マニュアルは設計・施工などにかかわる技術を初めて統一的に示した。

本マニュアルの完成を受け、2009年11月23日と25日の両日、現地で設計・施工関係者を対象に鋼矢板セミナーを開催。マニュアルとともに新日鉄の最新の鋼矢板施工技術を紹介し、高い評価を受けた。



ホーチミンでのセミナー



『鋼矢板設計施工マニュアル』

お問い合わせ先 総務部広報センター TEL 03-6867-2135

マレーシアの電気亜鉛めっき鋼板製造会社へ出資

新日鉄と阪和興業(株)は、マレーシアのTatt Giapグループとの間で、同グループ傘下の電気亜鉛めっき鋼板製造事業会社E-Galv Steel Industries Sdn. Bhd. (E-Galv Steel) の発行済株式を取得することに合意した。新日鉄と阪和興業はそれぞれE-Galv Steel議決権の10%、15%を取得し、同社は社名をNippon

EGalv Steel Sdn. Bhd (漢字名称：日達鋼鉄有限公司)へ変更する。

両社は今回の出資を通じ、Tatt Giapグループとの信頼関係の強化、取引関係の拡大、E-Galv Steelへの素材としての冷延鋼板の安定的な供給や技術供与を図ることで、日系をはじめとするマレーシア家電需要家の品質要求に応える

電気亜鉛めっき鋼板の供給体制を構築していく。



電気亜鉛めっきライン



調印式

お問い合わせ先 総務部広報センター TEL 03-6867-2135

「高バーリング型熱延 GA ハイテン」を開発・実用化

新日鉄は2009年11月2日、アンダーボディーや足回り部品に使用可能な「高バーリング型熱延GAハイテン」を開発し、業界で初めて量産体制を整えた。

アンダーボディーや足回り部品は、衝撃吸収特性や疲労

特性に加えて、穴抜け性に代表される局所変形能、切断特性、アーク溶接性などの材料特性や耐食性が必要となる。これらの特性を高い強度で両立させた防錆鋼板として、新日鉄は590MPa級・780MPa級熱延GAハイテンを今回開

発した。

同製品の開発では、各製造プロセスでの金属組織変化の過程を詳細に解析してプロセス全体を見直し、局所変形能を重視した組織制御と微細析

出物の均一分散制御を組み合わせた製法で、異なる特性を持った金属組織と析出物を高次元でバランスさせ、需要家の使用性能を満たす鋼板開発に成功した。

お問い合わせ先 総務部広報センター TEL 03-6867-2146

新チタン合金「Super-TIX[®] PLUS」がダンロップ「新・ゼクシオ」に採用

新日鉄が新たに開発したチタン合金「Super-TIX[®] PLUS」(スーパータイエックス・プラス)がSRIスポーツ(株)のダンロップ「新・ゼクシオ」(2009年12月発売)のドライバーとアイアンのフェースに採用さ

れた。

同製品は、前モデルのドライバーに採用された軽比重チタン合金「Super-TIX[®] 51AF」を、SRIスポーツのアドバイスに基づいて、新日鉄独自の製造手法でさらに強度を約10%

高めたもので、ゴルフクラブのさらなる軽量化と深重心化に寄与する。

お問い合わせ先
総務部広報センター
TEL 03-6867-2135



新・ゼクシオ

釜石製鉄所石炭火力発電所で林地残材を利用

釜石製鉄所は2009年12月18日、釜石市・釜石地方森林組合と共同で、同市が進める「緑のシステム創造事業」により新たに利用可能となった間伐材・林地残材を、同所の石炭火力発電所で利用すると発表した。

同所は経済産業省系補助事

業である「林地残材バイオマス石炭混焼発電実証事業」の採択を受け、構内に林地残材の事前処理設備と混焼設備を設置し、2010年度下期から混焼を開始する。木質バイオマス資源である林地残材を石炭と混焼することで、省エネ

図るとともに、森林整備や林業振興などの地域経済活性化に貢献していく。

釜石製鉄所の石炭火力発電所



お問い合わせ先
釜石製鉄所 総務部総務グループ TEL 0193-24-2332

日鉄住金建材(株)の新型遮音壁が第二京阪道路に採用

日鉄住金建材(株)が中日本高速道路(株)、西日本高速道路(株)と共同開発した新型遮音壁「前背面分離型支柱隠蔽式遮音壁」が、2010年3月開通予定の第二京阪道路に採用された。同製品は従来品と比べ、最大45%の軽量化に成功し、クレーンなどの重機を使用せず、作業員による施工を可能にした。損傷部の遮音パネルのみの取り替え対応が可能でメンテナンスが容易。また、背面板に新日鉄の高耐食性めっき鋼板「スーパーダイマ」に防汚機能を付加した「防汚ふっ素塗装鋼板」を使用したことで、美観を長期間維持することができる。



お問い合わせ先
日鉄住金建材(株) 道路環境商品営業室 TEL 03-3630-2459

新日鉄化学(株)が東都化成(株)エポキシ樹脂事業を統合

新日鉄化学(株)と東都化成(株)は2009年12月21日、東都化成のエポキシ樹脂事業を分社型吸収分割により新日鉄化学に統合することで基本合意したと発表。統合予定は2010年4月1日。新日鉄化学グループは2020年を目標年次とする「グランドデザイン」で、機能材料事業として売上高2,000億円以上への事業拡大を目指すことを掲げており、今回の統合はその具体策の一つ。エポキシ樹脂事業の体制整備を図り、機能材料事業の中核に位置づけ、事業の戦略的強化を狙う。今後、世界トップクラスのエポキシ樹脂メーカーで関連会

社の韓国・国都化学(株)との連携をさらに強化し、事業規模と製品ラインナップでアジアトップレベルの業界プレゼンスの達成を目指す。

高機能エポキシ樹脂を製造する東都化成千葉工場



お問い合わせ先
新日鉄化学(株) 総務・購買部(広報) TEL 03-5207-7600

新日鉄住金ステンレス(株)が二相系ステンレス鋼の生産・供給を強化

新日鉄住金ステンレス(株)は、近年各種化学プラントやケミカルタンカーなどを中心に世界的に需要量が増大している二相系ステンレス鋼の厚板商品メニューの拡充を完了し、生産・供給を強化する。2010年9月には世界初となる製品幅4,000mmまで製造範囲を広げるとともに、3,000t/月の供給体制を確立する。二相鋼は高い耐食性を持ち、応力腐食割れが発生しないことから、厳しい腐食環境に使用できることに加え、強度が高いため設計板厚の薄手化が可能で軽量化、溶接施工作業の負荷軽減と溶接材料の削減が可能と

なる。同社は薄板や棒線の二相鋼商品メニュー拡充にも取り組んでおり、今後もお客様の国際競争力向上に貢献していく。

お問い合わせ先
新日鉄住金ステンレス(株) 企画部
TEL 03-3276-4848



スーパー二相鋼 ASTM S32750を使用した海水ポンプ。2009年度ステンレス協会賞優秀賞受賞(写真提供: (株)荏原製作所)

柔道部 高橋和彦選手がグランドスラム東京大会で優勝

新日鉄柔道部の高橋和彦選手(24歳)が、2009年12月11~13日に東京体育館で行われた「グランドスラム東京2009国際柔道大会」の100kg超級で優勝した。グランドスラムは、五輪、世界選手権、マスターズと並ぶ重要な国際大会で、各国から選抜

された選手が競う(開催国は4人上がり、決勝はアテネ五輪金メダリストの鈴木桂治選手を大外刈りで破った。

【高橋選手のコメント】
今回は初戦から「粘ってポイントを重ねて勝つ」自分らしい柔道ができましたし、決勝戦は気持ちでは勝とうと思って前にどんどん出て攻めることができました。私の級は鈴木選手をはじめ強い選手が多く、2位では評価されない、優勝しなくてはと思っていたので、優勝できて大変うれしいです。次の「スウォンワールドマスターズ2010」でも思い切りやりたいと思います。



お問い合わせ先
総務部広報センター
TEL 03-6867-2132

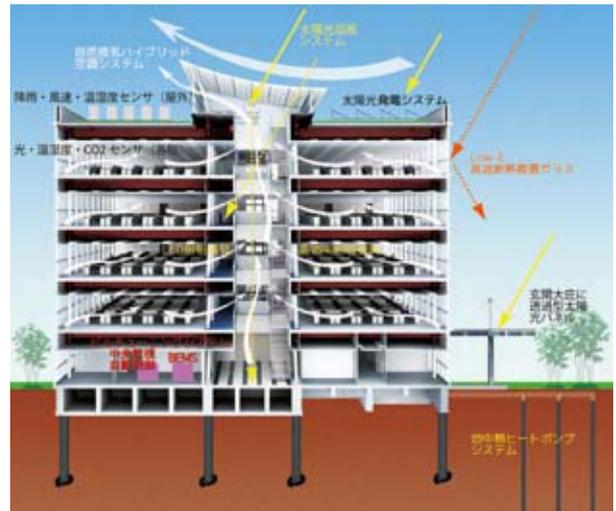
新日鉄エンジニアリング(株)が「ゼロ・エミッション・ビル」建設

新日鉄エンジニアリング(株)は、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)より「次世代省エネルギー等建築システム実証事業」として助成を受け、最先端の環境技術を多数備えた「ゼロ・エミッション・ビル」を北九州市戸畑区に建設する。

同社は戸畑事業所のビル建て替えに伴い、経済産業省が策定し、NEDOが推進する「平成21年度次世代建築物統合制

御システム実証事業(ZEB:ゼロ・エミッション・ビル)」に応募し採択された。本件は、自然エネルギーの積極的活用や省CO₂建築・設備システムなど最先端の環境技術の実証事業を行うもの。同社は今後も環境技術の開発と普及に努めていく。

お問い合わせ先
新日鉄エンジニアリング(株)
総務部広報室
TEL 03-6665-2366



(株)新日鉄都市開発 横浜市内最大級マンション建て替え事業

(株)新日鉄都市開発と三菱地所(株)が参加組合員として参画している横浜市西区の花咲団地マンション建て替え事業で、組合員全員の合意により申請していた「マンション建て替えの円滑化等に関する法律」に基づく権利変換計画が、2009年12月2日に横浜市長より認可さ

れた。368戸という規模は建て替えマンションとして横浜市内で過去最大級。同社はこれまでに5件の建て替え事業を成功させた実績を持っており、今後とも首都圏のマンション建て替え案件を中心に積極的に取り組んでいく。



外観完成予想

お問い合わせ先
(株)新日鉄都市開発 総務部総務グループ(広報) TEL 03-3276-8800

紀尾井ホール (財)新日鉄文化財団

1・2月公演から <http://www.kioi-hall.or.jp>

1月14日 紀尾井の室内楽 vol.21 KST アンサンブル 2010
出演: 鈴木豊人 (Cl)、堂阪清高 (Fg)、和田博史 (Hm)、井上静香、玉井菜採 (Vn)、馬淵昌子 (Va)、河野文昭 (Vc)、永島義男 (Cb)
ゲスト: 伊藤恵 (Pf)
曲目: ベートーヴェン: 七重奏曲 変ホ長調 Op.20、シューマン: ピアノ五重奏曲 変ホ長調 Op.44

1月22日 江戸音楽の巨匠たち~その人生と名曲~ (9)
三世杵屋正次郎 (長唄)
出演: 東音本多貞子 (唄)、東音大塚睦子 (三味線)、稀音家義丸 (唄)、稀音家助三郎 (三味線)、堅田喜三久社中 (囃子)、竹内道敬・徳丸吉彦 (対談)
演目: 「元禄風花見踊」「正次郎連獅子」、対談

2月4日 新日鉄プレゼンツ ニュー・アーティスト・シリーズ 第18回 富永愛子 (ピアノ)
出演: 富永愛子 (Pf)
曲目: ショパン: 華麗なる変奏曲 変ロ長調 Op.12、スクリャーピン: ソナタ 第2番 嬰ト短調「幻想ソナタ」Op.19 ほか

2月6・7日 日本、アジア・太平洋の音楽 宮崎県椎葉村嶽之枝尾神楽
出演: 椎葉村嶽之枝尾神楽保存会
嶽之枝尾神社宮司・椎葉勇、保存会会長・椎葉和男、頭取・椎葉武則、椎葉一 ほか 徳丸吉彦 (企画・構成)
演目: 嶽之枝尾神楽「注連の大祭」より

2月23・24日 女流義太夫の新たな世界
出演: 竹本駒之助、竹本綾之助 (浄瑠璃)、鶴澤駒治、鶴澤津賀寿 (三味線)、望月太左衛社中 (囃子)、吉田文雀、吉田和生 (人形) ほか
演目: 「妹背山婦女庭訓」「傾城阿波の鳴門」ほか

お問い合わせ・チケットのお申し込み先:
紀尾井ホールチケットセンター TEL 03-3237-0061 (受付 10時~18時 日・祝休)

絵本になった、鉄——137億年

2001年以来合計8巻を発行し、累計70万部を突破した新日鉄の学習絵本「新・モノ語り」シリーズ。製鉄所見学会、展示会、科学館などで無料配布し、子ども、大人を問わず、たくさんの方々から反響をいただきました。今回は9巻、10巻が同時新登場。東京大学総合研究博物館で開催された「鉄—137億年の宇宙誌」展にモチーフを得て、宇宙誕生に始まり、地球上の生命を支え、文明を築いてきた鉄から現代の鉄、未来への可能性までが、壮大な冒険物語として描かれています。いま私たちの身近にある鉄が、じつは宇宙が生まれた137億年前からなくてはならない存在だった…。知られざる鉄の役割を通じて、その素晴らしさを多くの皆さんに知っていただけたらと、新日鉄は願っています。

先進のその先へ、新日鉄
www.nsc.co.jp

◎絵本、差し上げます。申込方法：①送料先（お名前・お住みの住所）に記入して下記までお送りください。〒100-8703 東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 新日鉄総務部広報センター「絵本文書係」

文藝春秋 12月号掲載

社会へ、あなたへ、ふれあいの輪

鉄の魅力、一人でも多くの皆さんに伝えたい。社会を支える鉄鋼メーカーとしてさまざまな場でお役に立っていききたい。そんな思いから、新日鉄は独自の活動を進めてきました。製鉄所見学会はもとより、ものづくりの面白さや大切さを知っていただくために、「たたら製鉄」実演、小中学生への「環境・エネルギー学習」支援、教員の方々を招いた「民間企業研修」、鉄を深く知る「絵本」の発行など、その活動はどんどんひろがっています。ものづくり、環境、文化、音楽、スポーツなどをテーマに、より多くの人とのふれあいの場を増やして、ともに学び、成長していけたらうれしい。より良い未来へ向けた新日鉄の輪に、ぜひ参加してみてください。

先進のその先へ、新日鉄
www.nsc.co.jp

文藝春秋 1月号掲載

C O N T E N T S
JANUARY & FEBRUARY 2010 Vol.195

① 新年のごあいさつ

**厳しい経営環境の下、
基本に立ち返り、
確固たる基盤づくりを
推進します**

新日本製鉄(株) 代表取締役社長 宗岡 正二

③ 新春会長対談

**科学と社会を結ぶ
架け橋になりたい**

東京大学大学院総合文化研究科教授 黒田 玲子氏
新日本製鉄(株) 代表取締役会長 三村 明夫

⑨ 社会とともに地域とともに VOL.31
エコプロダクツ 2009

⑪ 社会とともに地域とともに VOL.32
**子どもたちや先生に
企業の取り組みを伝える**

⑬ 社会とともに地域とともに VOL.33
**全国のものづくりの心をつなぐ
“たたら”の熱い炎”**

⑮ GROUP CLIP

表紙のこぼれ **六方結晶**

ここから見渡せるのは、土、木々、空。
それぞれ秩序を持つが、集まればひとつの意思のようだ。

祐成 政徳 (すけなり・まさのり)

作者プロフィール

1960年福岡県生まれ。武蔵野美術大学油絵学科卒業。93年から一年余ドイツ、ミュンヘン州立芸術大学に留学(シュタイナー奨学金)。その後もドイツに滞在制作で招かれ97年個展「OPERA」を開催。2003年チェコ「House of Art」にて個展を開催。2006年第六回上海ビエンナーレ参加、2007年エルマンノ・カソリ・プライズ コミュニケーション特別賞受賞。2002年より東京造形大学非常勤教員、現在に至る。



JANUARY & FEBRUARY
2010年1月8日発行

◎新日本製鉄株式会社

〒100-8071 東京都千代田区丸の内2-6-1 TEL03-6867-4111
編集発行人 総務部広報センター所長 丸川 裕之
企画・編集・デザイン・印刷 株式会社日活アド・エイジェンシー

●皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。FAX:03-6867-3597
●本誌掲載の写真および図版・記事の無断転載を禁じます。

